

平成29年2月7日

ファンド名: 投資ファンド『一銭』
代表者名: 古尾谷 亮則

各位

運用部門統合に伴う組織変更のお知らせ

当ファンドは2/2に実施した保有株式の売却を契機として、株式運用部門(LT部門・ST部門)の統合(以下、「本統合」といいます)を行うことを決定しましたので下記の通りお知らせいたします。

記

1.本統合に至る経緯

当ファンドは平成27年10月の設立当初より、国内株式・債券による運用を行う「LT部門」「ST部門」と高利率な円定期預金による運用を行う「FD部門」の3部門体制で資産運用業務を行ってまいりました。しかし、昨年度は年初から原油安・円高・政情不安(brexit)等の影響を受けた株価急落に見舞われ、11月の米国大統領選挙に至るまでの期間、厳しい運用を強いられました。そうした事業環境にあつて市場変化に対応できる機動力の確保や取引コスト低減による利益率向上等が課題となっております。そこで、LT部門が保有していた全普通株式の売却※を一つの区切りとして、運用部門の統合を行い経営資源集中による一層の効率化を推進することといたしました。

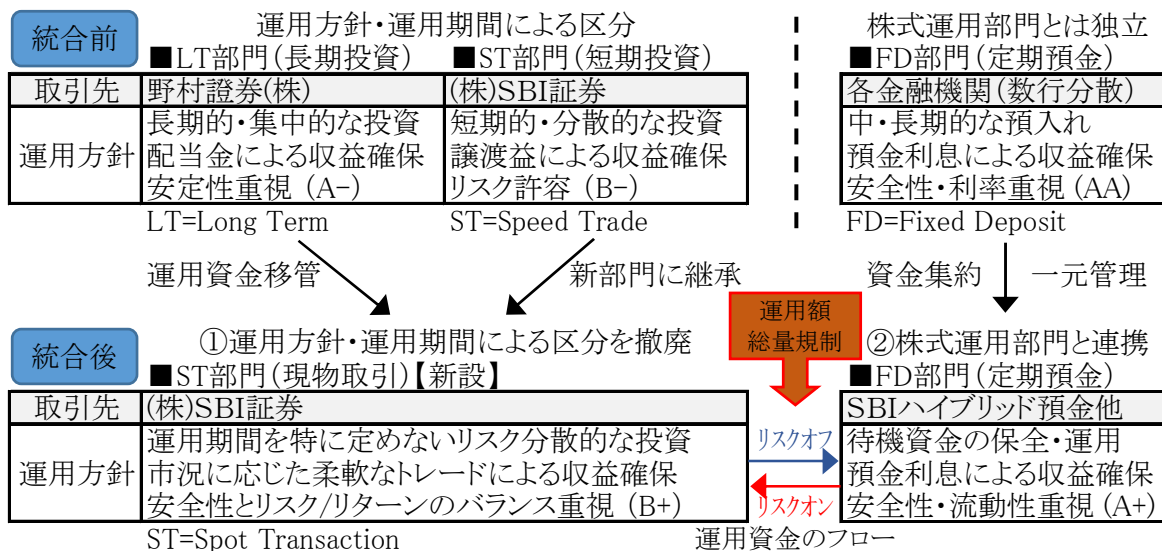
※参考情報(売却済株式)

証券コード	銘柄名	株数	種別	配当金貢献額	売却日	平均約定単価
5020	J Xホールディングス(株)	6500株	普通株式	100,400円/年(税引前)	2月2日	523.4円

上記株式は当ファンド設立の礎であり、これまで配当金収入の中核を担っていたことから、全株売却については苦渋の決断でありましたが、①現在の株価水準が高値圏にあること、②米新政権の今後の政策に対する不透明感、③石油・ガソリン需要の先細り懸念等を総合的に勘案した結果、今回の利益確定売りの決定に至りました。

2.本統合の概要

①株式運用部門「LT部門」「ST部門」の統合、および②定期預金部門「FD部門」との連携強化
運用対象 **国内株式・債券** **円定期預金**



【統合・連携強化の効果】

- 取引コスト低減による利益率の向上 → ロスカット時の損失と心理的負担も軽減
- 証券口座集約による管理コスト削減 → 損益通算の対象となる取引範囲の拡大
- 取引チャネル拡充による収益機会拡大 → PTS(時間外取引)や携帯端末の活用
- 資金の機動力向上 → 市況に即した迅速な資金展開と待機資金の保全を両立

3.今後の予定

LT部門の運用資金を三菱東京UFJ銀行経由で出金し、ST部門に移管します。(2/7~2月中旬頃)トヨタ自動車AA型種類株式(200株)についてはLT部門廃止後も引き続き野村証券(株)に預託します。上記移管手続きに伴う手数料・違約金の発生、資本金の変動や投資活動への支障などはありません。なお本統合が業績に与える影響については現在精査中でありますので、詳細が判明した場合には速やかにお知らせいたします。

以上